「阿蘇噴煙」
1950年ごろ、パステル・紙
24・5センチ×33・8センチ

曽宮一念（1893～1994年）

〈名画の扉〉 大川美術館特集展示から

火山や溶岩、噴煙に魅せられた曽宮一念は1949年、初めて鹿児島の地を訪れ、以後、毎年のようにスケッチ旅行に通いました。ダイナミックな構図の中に、雲や風、夕日や雨がもたらす変化をとらえ、躍動的な風景画を描きました。みずみずしい色彩と奔放な筆致は、没後25年を経た今もなお私たちの目に鮮やかです。

当館にはご遺族からの寄贈により80点を超える曽宮作品が収蔵されています。現在展示室5では、特集展示「秋の実りと曽宮一念」として、素描作品の数々を紹介しています。

鉛筆や色鉛筆、コンテやパステルだけで描かれた作品からは、風景の迫力を目の当たりにした曽宮のわき立つ創作意欲が垣間見られます。

曽宮は、「冬の晴天の朝と夕方に実に良く富士が見えた」と後に自ら回想する落合の地に、戦災にあうまで長年暮らしました。この間に、松本竣介夫妻とつかの間の交流を持ったことでも知られます。「松本竣介街歩きの時間」とあわせてお楽しみいただければ幸いです。

（小此木）